

教科	総合	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	年次	1
使用教科書	なし						
副教材等	『課題探究メソッド 2nd Edition』(啓林館)						

1 授業及び学習の方法等

- ・教科連携による横断的な学習や外部講師等からの学びを通じて、各教科で獲得した知識・技能が社会で活かされていることを理解し、探究活動を通して、実社会で活かせる知識・技能、考え方を身につける。
- ・グループ探究を通して、自分の考え方や価値観に気づき、異なる視点にふれる中で、様々な考えを受け入れる寛容な態度を育成する。

2 学習の到達目標

- ・身近なところと世界で起きている諸問題・諸課題の関係性に気づき、それらの解決について取り組む中で、自己のあり方や生き方について自らの考えを見つめることができる。
- ・現代の社会課題を発見し、より良い社会の実現に向けて探究活動に取り組むことを通して、平和で調和あるグローバル社会の創造を探究する資質・能力を育成する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	教科学習及び総合的な探究の時間で習得する知識・技能が相互に関連づけられ、探究活動の中で活用することができる。現代社会の諸課題について、自己の関心をもとに課題を設定することができる。	自ら設定した課題の解決に向けて、他者と協働しながら探究方法を考案し、実践することができる。また、探究の成果をもとに他者に自分の考えを適切な方法で伝えることができる。	自己・他者・社会とのつながりを意識しながら、見通しをもって粘り強く課題解決に向けて取り組むことができる。また、学習を通して自己を見直すことができる。
評 価 方 法	探究への取り組み、提出物の記述、成果物の内容	探究への取り組み、提出物の記述、成果物の内容	探究への取り組み、提出物の記述、成果物の内容

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間		1.現代社会の諸問題に気づき、自己の関心に引きつけて課題を設定し、探究活動を進める。 2..仮説の立て方や情報の集め方、探究の方法や発表の方法を習得する。	a:教科学習および探究学習を通して習得した知識・技能を、自らの探究活動に関連づけることができる。 b:課題設定のために必要な情報を収集し、収集した情報を整理・分析することができる。 c:日常生活や社会に目を向け、現代社会にある諸問題・諸課題に気づくことができる。
前期 期末		3.様々な先行研究にあたることによって、興味・関心のある分野に対して、多角的に向き合う。 4.探究活動を通して、社会とのつながりを意識する。	a:日常生活や社会に目を向け、現代社会にある諸問題・諸課題に自ら関心に関連づけて課題設定することができる。 b:課題設定をし、収集した情報を活用し、課題解決に向けて思考・判断することができる。 c:現代社会の諸課題を自己の関心に引きつけて課題を設定し、見通しをもって探究活動を進めることができる。
後期 中間		5.グループで研究テーマを設定し、協働しながらグループ探究を進める。 6.探究内容に応じた方法を検討し、グループで探究活動を進める。	a:教科学習および探究学習を通して習得した知識・技能や情報収集力をいかして、自身の関心に基づいた課題を設定できる。 b:課題解決に向けて、他者と協働しながら探究方法を考案し、実践することができる。 c:自己・他者・社会とのつながりを意識しながら、課題解決に取り組むことができる。
後期 期末		7.他校生や海外の学生との交流・議論を通して、異なる視点にふれる中で、自分の考えを見つめ直す機会とする。 8.探究の成果をまとめ、校内外で発表する。	a:教科学習及び総合的な探究の時間で習得する知識・技能が相互に関連づけられ、探究活動の中で活用し、成果にまとめることができる。 b:課題解決に向けての探究の成果をもとに、他者に自分の考えを学術的な手法を用いて伝えることができる。 c:自己・他者・社会とのつながりを意識しながら、見通しをもって粘り強く課題解決に向けて取り組むことができる。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	総合	科目	総合的な探究の時間	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	なし						
副教材等	課題研究メソッド 2nd Editionシリーズ、日経電子版新聞						

1 授業及び学習の方法等

(1) 参加型・講義型学習、プレゼンテーションや論文など、学習課題に応じて多様な学習・発表形態を用いる。 (2) 課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けるために、教科学習と横断的・総合的に連携したカリキュラムを設計する。 (3) 探究の過程である「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を発展的に繰り返し、校内外を問わずに探究調査や発表の場を広げることを通じて、自身の興味関心に基づいた探究活動に取り組めるように支援する。 (4) 「よりよい社会の創造に貢献する」ことを共通テーマに、グループ探究活動を行う。教員1名が4～5グループ(約20名ずつ)の生徒を受け持ち、生徒の探究活動を個別に支援する。

2 学習の到達目標

身近なところから世界で起きている諸問題に向かい、地域や世界の文化の違いや人としての在り方について批判的に考えることで、課題を発見し、平和の文化を築くために、以下の資質・能力を育成する。 (1) 探究Ⅰの学習をベースにして、多教科連携の横断的な学習や外部講師による講演から、よりよく課題を発見し、解決していくための知識・技能を身に付ける。 (2) ユネスコ国際教育の理念に基づき、人間の尊厳・平等を尊重し、ESDにまつわるテーマへの知見を深めて、持続可能な社会を実現するための態度を育てる。 (3) 現代社会の諸問題に主体的に取り組み、その理解と解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。
--

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	よりよい社会を創造していく大切さを理解した上で、そのために必要な取り組みを考案し、調査・実験等を適切かつ正確に実施した。	自己の関心をもとに、現代社会の諸問題に関連する探究課題を設定し、それに応じた情報収集を行ったり適切な検証方法を考えたりして、探究できた。また、探究活動を通じて得たものを、今後の在り方に生かすことができている。	様々な先行研究を踏まえながら、自らの探究内容の特徴を捉え、現代社会の諸問題に真摯に向き合うことができた。そして、よりよい社会の実現に貢献しようとしている。
評 価 方 法	研究計画書や研究ノート、最終レポートの記述、探究の成果発表等の内容から評価する。	研究計画書や研究ノート、最終レポートの記述、探究の成果発表等の内容から評価する。	研究計画書や研究ノート、最終レポートの記述、探究への取り組みの姿勢(行動の観察)、探究の成果発表等の内容から評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間		1. 自らの関心が向く社会テーマを見つけ、新聞記事を通じてキーワードを抽出する。 2. 図書や電子ジャーナルの効率的な検索法を学び、実際のデータベースを使用する経験を積む。 3. 物事を多面的に見ることの大切さを理解し、振り返りを通して学んだことを自己評価する。 4. 外部の専門家や実務家を招いた講演会やワークショップを実施し、異なる視点から物事を考える能力を養う。	(a) 複数の信頼できる情報源から適切なデータを収集し、関連する文献を効率的に特定・分析することができる。 (b) 興味・関心に基づく課題の設定、情報の批判的分析、多角的自己評価及び異なる視点から物事を考えることができる。 (c) 社会的テーマを選び情報を整理する能力、効率的な情報検索と活用、自己評価を通じた学びの振り返り、異なる視点を統合できる。
前期 期末		1. 文献調査を通じて、現代社会の諸問題に気付く。 2. 様々な先行研究等にあたることで、自らの興味の分野に多角的に向き合う。 3. 自らの研究テーマを設定し、個人探究を行う。	(a) 出典が明確で信頼できる著者による正確で最新のデータから、異なる立場や視点から書かれた研究も参照しながら、実現可能で具体的な探究テーマを設定できる。 (b) 文献調査から社会問題を認識し、先行研究を基に興味分野を深掘りし、独自の研究テーマを定め探究できる。 (c) 文献調査で社会問題に気づき、多角的な先行研究を通じて関心分野に深く向き合い、独自の研究テーマを設定し探究できる。
後期 中間		1. 自らの探究内容に応じた、実地調査や実験等の準備を行う。 2. 実地調査や実験等を行い、成果をまとめて報告する。 3. 報告内容を振り返り、探究を修正・発展させる。 4. 発展させた探究内容とその成果をまとめる。	(a) 適切な方法で調査や実験を行い、得られたデータを統計的・質的分析手法を用いて分析し、それらを論理的に整理して効果的に伝えることができる。 (b) 実地調査や実験の計画と実施、成果の報告、自己反省を通じた探究の改善及びその成果の整理を行い、発表を通じて他者に伝えることができる。 (c) 探究したい内容に基づく準備、実地調査や実験を経て成果を報告し、それらの反省を踏まえた修正・発展を経て最終成果をまとめることができる。
後期 期末		1. 探究成果を高校生国際会議等で発表する。 2. 一年間の探究成果の報告を行い、これまでの探究内容とその成果をまとめる。 3. 二年間の探究学習を振り返り、今後の自分の生活や学びに生かす。	(a) 調査結果やデータに基づいて論理的かつ説得力のあるプレゼンを行うことができ、探究学習の成果を学術的に優れた文章でまとめることができる。 (b) 探究成果を校内外で発表し、一年間の成果報告のまとめを他者に伝えることができる。 (c) 探究成果を校内外で発表し、その成果をまとめ、二年間の探究活動を振り返って、得た知見を生活と学びに反映させることができる。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	総合	科目	グローバル探究Ⅲ	単位数	1単位	年次	3年
使用教科書	なし						
副教材等	課題研究メソッド 2nd Editionシリーズ						

1 授業及び学習の方法等

(1)内容 グローバル探究Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容を更に発展させ、自己の在り方や生き方と関連づけながら探究活動を深める。 研究成果を校内で発表し、積極的に校外でも発表する。また、成果は論文にまとめる。 探究活動に取り組んだ過程は必要に応じてポートフォリオにし、卒業後の進路実現に活用する。 (2)実施方法 時間割りには設定せず、履修生が指導教員に週1回、指導・助言を受けることで授業に替える。その際、指導教員は、履修生が1単位として認定できるだけの学習活動を行なっていることを確認する。履修生は7月に中間発表、9月に最終発表を行い、10月末までに論文を提出する。また、校外の発表は必須ではないが、研究発表会で積極的に発信することを目指す。成績評価は、活動状況・発表・論文を基に文章表記にて評価する。
--

2 学習の到達目標

①グローバル探究Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容を更に発展させ、自己の在り方や生き方と関連づけながら探究活動を深められる。 ②研究成果を発表し、成果は論文にまとめる。 探究活動に取り組んだ過程を振り返り、卒業後の進路実現や将来の生き方や在り方へと繋げる。
--

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成している。	グローバル探究Ⅰ・Ⅱ、各教科等の知識及び技能を活用して、実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題をたて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	課題解決に向けて、探究を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、粘り強く探究活動に取り組むことができる。
評 価 方 法	研究計画書や研究ノート、最終レポートの記述、探究の成果発表の内容から評価する。	研究計画書や研究ノート、最終レポートの記述、探究の成果発表の内容から評価する。	研究計画書、ポートフォリオ、最終レポートの記述、探究への取り組みの姿勢(行動の観察)、探究の成果発表の内容から評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価する。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	探究計画を立てる	1.オリエンテーション 2.探究計画書の作成・発表	a:テーマ設定するにあたって、必要となる知識・技能を自ら調べ学習することができる。 b:これまでの学びを踏まえて、実生活の中から課題を見つけ、探究のテーマを設定することができる。また、その課題解決に向けて、探究の計画を自らたてることができる。 c:探究のテーマや探究方法について、多角的に考え、これまでの自己の学びと結びつけながら取り組むことができる。
前期 期末	探究を実践する	3. 計画書をもとに、実験・調査を行う 4. 中間発表会	a:自分の知識や考えを批判的に振り返り、様々なものの見方で社会の問題を吟味することができる。 b:探究的なプロセスを通じて、他者に自分の考えを伝えることができる。 c:様々な観点から設定したテーマ・方法を見直すことができる。また、課題解決に向けて、粘り強く探究を進めることができる。
後期 中間	探究成果を発表する	5. 探究成果の発表準備 6. 最終発表会(校内) 7. 探究内容を振り返り、論文としてまとめる 8. 探究活動の振り返り 学びの成果の振り返り	a:探究学習を通して身に付けた知識や技能について振り返り、課題解決に向けて獲得した概念を自己評価することができる。 b:探究の成果をまとめ発表することで、自分の考えや意見を周りに発信することができる。 c:3年間の探究学習を通して考えたこと・学んだことを振り返り、今後の自分の生き方・社会の在り方に結びつけることができる。
後期 期末			

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。